

戦後 80 年

“STRIPE”——水平線——

山田正亮と焼け跡の前衛

山田作品56点、
そのおよそ半数が初公開。

——
知られざる線の芸術が姿を表す。



山田正亮 《Work C.34》 1960 年
油彩・キャンバス 個人蔵

東御市梅野記念絵画館 PRESS RELEASE

2025 年 9 月 6 日（土）－ 11 月 3 日（月・祝）

戦後 80 年

“STRIPE”——水平線——

山田正亮と焼け跡の前衛

展覧会について

このたび梅野記念絵画館では、特別展「“STRIPE” ー水平線 戦後 80 年 山田正亮と焼け跡の前衛」を開催いたします。

戦後の日本では、時代を再構築する気運の中で、前衛作家たちは壊滅的な状況を乗り越え、革新的表現を生み出していました。さらには、新たな世代の表現者たちが歩みをはじめ、現代美術が形作られていきました。日本の抽象運動を牽引した**長谷川三郎**（1906-1957）や**吉原治良**（1905-1972）をはじめ、シュルレアリスムの実践者**伊藤久三郎**（1906-1977）や浪漫の半抽象を描く**菅野圭介**（1909-1963）など、梅野記念絵画館初代館長をつとめた梅野隆（1926-2011）が、40 年以上にわたって蒐集した梅野コレクションの中から、**時代を象徴する前衛作家たち**を紹介します。

またコレクション外から、戦後の憔悴した社会から出発し、独自の手法でおよそ 5000 点もの絵画を描き続けた抽象画家**山田正亮**の作品を展覧します。その絵はアメリカ・モダンアートと共鳴するかのような**現代抽象の鼓動**を感じさせます。戦後の前衛美術において特異な活動を示した山田は、1960 年代のストライプ絵画が高く評価され、2016 年には東京および京都国立近代美術館を巡回する大規模な回顧展が開催されました。

本展は、美術品コレクター・梅野隆の理念を引き継ぐ梅野記念絵画館ならではの、**個人コレクターご所有の山田正亮作品**が見どころです。展示作品の借用先はコレクターに絞り、**コレクターズ・アイ**から見た作品の魅力を探ります。これまでに**未公開の山田作品 23 点**を含めた山田作品 56 点を中心に、時代をめぐる前衛作家の作品を大々的に展示する貴重な機会となります。戦後を取り巻く前衛画家の物語と、空間を包むストライプ絵画の美の調和をお楽しみください。



山田正亮 1972 年 代々木上原アトリエにて

一般社団法人山田正亮の会より画像提供

公立美術館ではおよそ 10 年ぶりの山田正亮展 さらに、信州では初の大規模展示

本展覧会は、2016 年に東京国立近代美術館および京都国立近代美術館を巡回した回顧展以来、およそ 10 年ぶりに山田正亮の作品を大きく展示する機会となります。さらに、長野県内での山田正亮展の開催は初となります。独自の抽象表現で体系的な画業を歩み、現在では全国各地の美術館に作品が収蔵される山田の初期から円熟期までの作をご紹介します、信州の地で単一の作品では味わえない制作の流れや絵画の響き合いをお楽しみいただけます。

コレクターの所有する未公開の作品を多数展示！

本展覧会で公開する山田正亮作品は全て、個人コレクターの方々のご所有する作品となっております。蒐集家梅野隆の理念を引き継ぐ当館ならではの企画として、コレクターを魅了してきた山田作品を紹介します。その中には、これまで画廊や美術館でも展示記録のない未公開の作品もあり、生涯で 2000 点以上の絵画を描いた画家の知られざる作品もご覧いただけます。なかでも、初公開の〈Work C.156〉、〈Work C.160〉は、ストライプに段階的なグラデーションを示した非常に珍しい作例となっており、今回の展覧会の注目作品といえます。

戦後に出発した画家の抽象絵画の気迫を体感！

梅野記念絵画館コレクションの系譜を紐解くことで明らかとなった蒐集家梅野隆の前衛コレクションの作品と、戦後期に特異な業績を示し抽象画を描き続けた山田正亮の作品とが一堂に会する展覧会場は必見です。特に山田のストライプ作品は、重厚な絵の具の物質感と個性豊かな色彩のバランスが見どころであり、会場で実際の作品をご覧いただくことで、感情にまで訴えかけてくるような絵画の気迫に圧倒されることでしょう。

梅野隆の前衛コレクション

1945 年、日本では幾度となく重なる空襲により都心部は焼け跡となります。そして 8 月 15 日、終戦を迎えました。戦後復興期、新しい時代を構築する機運が高まる中で前衛画家たちは壊滅的な状況乗り越え革新的な表現を求めます。さらに自由や個性を追求する風潮のもと、新たな世代の表現者たちが歩み始め、焼け跡の前衛美術が形成されていくこととなります。そこから出発した前衛画家の一人が山田正亮（1929-2010）でした。

また同時期、梅野記念絵画館初代館長梅野隆（1926-2011）は、空襲や食糧難により青春時代に大きな挫折を経験します。後年になって、作品蒐集を行うことになる梅野は、その挫折感を美への沈溺で癒したと回想しています。戦争は、画家にとっても、蒐集家にとっても価値観を一変する出来事でした。

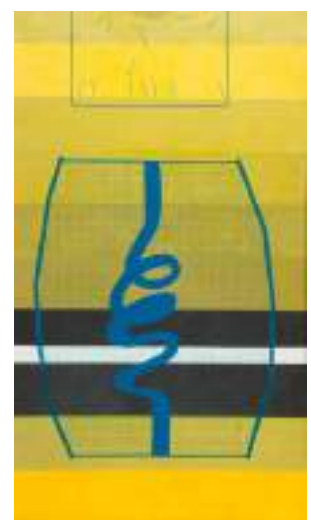
展覧会の序章として、まずは館所蔵の梅野コレクションより、近代日本の前衛絵画を牽引し、山田正亮が私淑したという画家長谷川三郎（1906-1957）をはじめ、京都前衛の先駆者伊藤久三郎（1906-1977）や戦後不遇の道を歩んだ画家菅野圭介（1909-1963）といった作家を紹介します。コレクションを読み解き、蒐集家の前衛美術に対する眼（コレクターズアイ）に迫るとともに、戦後抽象の系譜を紐解きます。



「<https://kousin242.sakura.ne.jp/wordpress014/> 戦争・負の遺産 / 映像資料の読み方 / 東京大空襲写真集 /」より引用



菅野圭介 《黒潮》 制作年不詳
油彩・キャンバス 東御市梅野記念絵画館蔵



伊藤久三郎 《ムシの2》 1974 年
油彩・キャンバス 東御市梅野記念絵画館蔵

眼から戦後抽象を考える

第一章

「空白」から静物、そして抽象へ

1948～1955 , 1956～1959

一九四五年三月。徹底した波状爆撃に焦土と化した東京の変貌する光景に立ち尽くすその時現在、再度にわたる核の投下につきぬける閃光と都市の残骸が交叉し戦争という異常な状態の時代は終熄した。

(2005 年 山田正亮「作品と作品のあいだ」より)

山田正亮（本名：正昭）は 1929 年 1 月 1 日、東京都荏原郡荏原町（現在の品川区）において、5 人兄妹の末子として生まれました。

陸軍行政本部勤務班製図手養成所に入所し、陸軍兵器行政本部委託生となるなか、1945 年に空襲により東京の自宅が焼失し、さらにその避難先でも戦災に見舞われます。この苛烈な体験が画家山田正亮の出発点でした。少年時代に価値観が一変した山田は、敗戦直後のあらゆる物資が不足する社会を「空白」と表現し、自身の“記憶”の中にある静物＜Still Life＞を死の象徴に準えて繰り返し描きます。後期印象派を思わせる初期の静物画は、年代が進むごとに次第にフォルムの概念を失い、モザイク画のような細かな色面に分割されていきます。そして1956年、山田の画業の核となる作品シリーズ＜Work＞が誕生しました。山田はこの抽象化の過程を絵画の「解体」と表現し、＜Work B＞を皮切りに以降 40 年間にわたり展開することとなります。

Still Life



山田正亮 《Still Life no.32》 1951 年
油彩・キャンバス 個人蔵



山田正亮 《Work B.136》 1956-57 年
油彩・キャンバス 個人蔵



山田正亮 《Work B.p 186》 1958 年
油彩・紙 個人蔵



山田正亮 《Work B.p 208》 1959 年
油彩・紙 個人蔵

Work B

反復する絵画への到達

1960～1969

1960年代を迎えると、山田正亮は画面を横断する水平線を幾重にも描いた「ストライプ」絵画<Work C>へと到達します。この時期の画家の制作ノートには、「反復」、「くりかえし」、「全色彩」といった言葉が複数回登場しており、絵画における色彩と反復表現について模索していたことがわかります。

支持体を覆うように何層にも反復される線は、まるで焼け跡の地平線を思わせるような情動的なストロークで描かれます。60年代初期の絵画は筆跡の揺らぎや絵の具の滴りによる物質的な印象を感じさせる表現ですが、やがて色彩は限定され、後期になると2～3色を並列させた規則的なストライプ絵画へと移り変わります。また、山田は根源的な色彩としての「白」を追求し、ストライプから逸脱したモノクロームの絵画も描いていました。この<Work C>は、その体系性と質の面から、山田の画業の中核をなす作品群といえます。

60年代はアメリカポップアート全盛期にあたり、山田のストライプ絵画には抽象表現主義を想起させる作品もあります。しかし、画家はそれらを知らずに、あるいは先んじて同様の絵画を描いていました。同時期の国際的なモダンアートの潮流び先駆けた表現を、外的な影響を受けることなく、異質な経歴と思考のなかで導き出していたのです。山田の60年代の絵画に対して、美術批評家の藤枝晃雄は「我が国に置いて類まれな品位ある感情を画面自らがたたえている。」¹と評価しました。

註1 佐谷画廊「山田正亮展（1979年）」展覧会カタログより



山田正亮 《Work C.63》 1960年
油彩・キャンバス 個人蔵



山田正亮 《Work C.134》 1963年
油彩・キャンバス 個人蔵



山田正亮 《Work C.462》 1969年
油彩・キャンバス 個人蔵



山田正亮 《Work C.242》 1965年
油彩・キャンバス 個人蔵

Work C

「集積された平面」へ

1970～1979

10 年ごとにアルファベットのタイトルが変遷する<Work>は、画家が自らの画業までも意識的に作り上げているのかのように、システムチックに展開してきます。1970 年代の絵画<Work D>は、まるで画面の整理作業ともいえるような、整然とした直線による色彩分割の構成が始まります。1971 年の制作ノートに、山田は以下のメモを残していました。

集積された平面
横に描かれた線＝立像
そして描くことの意味とつなげる
樹木作品
抽象 非造形

（山田正亮 1971 年のノートより）

絵画の色彩や明度は均一化し、ひとつの平面のなかへ集積されていきます。60 年代のストライプは幅と奥行を失い、「グリッド」の構成へと移行していくのです。

山田正亮の絵画は、1978 年に康画廊行われた個展において大きな脚光を浴びましたが、この時注目されたのは、10 年前に描いていたストライプ絵画でした。過去の絵画が山田の評価を決定的なものにしたのです。この時代は、『美術手帖』1977 年 4 月号で「絵画の平面と平面の絵画」特集が組まれるなど、平面絵画への注目が集まっていた頃でもあり、これを機に、社会の関心の外にあった<Work>は改めて公開されていくこととなります。



山田正亮 《Work D.301》 1978 年
油彩・キャンバス 個人蔵



山田正亮 《Work D.67》 1971 年
油彩・キャンバス 個人蔵



山田正亮 《Work D.312》 1979 年
油彩・キャンバス 個人蔵

“円環”の成立 1980～1989 , 1990～1995

1995 年 , 或る段階への接点において , 「Work」の全体は一つの円環を形成する。
(山田正亮 1994 年 佐谷画廊『Works 1995』より)

1980 年から 90 年代にかけて、「グリット」絵画に豊かな色彩と有機的なストロークが復活します。分割されていた矩形の境界線の上を、荒々しいストロークが横断し、初期作品に帰結するかのような恣意的な絵画表現が見られるようになります。このことは、<Work>が一巡したと捉えることができます。

そして 1995 年、山田正亮の絵画は「円環」の成立を迎え、<Work>の制作に終止符が打たれました。本展覧会で取り上げる山田正亮の絵画はここまでですが、山田はその先に<Color>というシリーズを描き始めます。戦後、生への執着の中で握った絵筆は、その後 40 年以上にわたり抽象画の世界を切り開き、現代アートの先駆的絵画を描くこととなりました。戦後 80 年の節目、私たちは山田の絵画をどう見るでしょうか。画家の表現から、戦後の前衛絵画の位置付けを考えます。

Work E



山田正亮 《Work E.139》 1983 年
油彩・キャンバス 個人蔵



山田正亮 《Work E.137》 1983 年
油彩・キャンバス 個人蔵



山田正亮 《Work F.351》 1995 年
油彩・キャンバス 個人蔵

そして
Work F

開催概要

展覧会名 "STRIPE" ー水平線 戦後 80 年 山田正亮と焼け跡の前衛

会場 東御市梅野記念絵画館 大展示室

会期 2025 年 9 月 6 日（土）ー 11 月 3 日（月・祝）

休館日 月曜日（ただし、9 月 15 日、10 月 13 日、11 月 3 日は開館し翌火曜日休館）

開館時間 9:30-17:00 ※入館は 16:30 まで

入館料 800 円（団体 700 円） ※中学生以下無料 ※障害者割引、学校利用減免、減額制度あり

主催 東御市梅野記念絵画館

- イベント ①オープニング講演 「山田正亮 ストライプの触覚 ー 焼け跡の地平線と染織の記憶」
- 講師：岡部昌幸（東御市梅野記念絵画館 館長）
- 日時：9 月 6 日（土）14 時～
- 場所：梅野記念絵画館ホール
- 料金：無料（展覧会観覧には入館券をご購入ください。）
- ②特別講演 「20 年後の山田正亮展 その人と作品について」
- 講師：神山亮子（府中市美術館 学芸員）
- 日時：10 月 5 日（日）14 時～
- 場所：梅野記念絵画館ホール
- 料金：無料（展覧会観覧には入館券をご購入ください。）
- ③ワークショップ「グラスサンドアートで色の層をつくろう！」
- 講師：吉田禎（日本サンドペインティング協会公認インストラクター）
- 日時：9 月 28 日（日） 午前の部 10:30～/ 午後の部 13:30～
- 場所：梅野記念絵画館ホール
- 料金：700 円（要予約 梅野記念絵画館まで電話でお申し込みください。）

東御市梅野記念絵画館・ふれあい館

館長 岡部昌幸（おかべ まさゆき） 担当 佐野悠斗（さの ゆうと）

住所 〒389-0406 長野県東御市八重原 935-1 芸術むら公園

電話 0268-61-6161

Mail umenokinen@ueda.ne.jp

2025 年 8 月 1 日付情報